

自己評価報告書

評価対象期間 平成 29 年度
(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

学校法人タイケン学園
日本ウェルネス歯科衛生専門学校

平成 30 年 4 月 9 日

目次

基準 1	教育理念・目的・育成人材像	1
基準 2	学校運営	2
基準 3	教育活動	3
基準 4	学修成果	4
基準 5	学生支援	5
基準 6	教育環境	6
基準 7	学生の募集と受け入れ	7
基準 8	財務	8
基準 9	法令等の遵守	9
基準 10	社会貢献・地域貢献	10
基準 11	国際交流	11

評価委員

	所属	氏名
委員長	日本ウェルネス歯科衛生専門学校 校長	前田 隆秀
委員	日本ウェルネス歯科衛生専門学校 事務長	大川 浩子
委員	日本ウェルネス歯科衛生専門学校 教務課長	田口 菜穂子
委員	日本ウェルネス歯科衛生専門学校 教務主任	渡辺 節子
委員	日本ウェルネス歯科衛生専門学校 教務	馬場 夏美

基準 1. 教育理念・目的・育成人材像

大項目	評価項目	自己評価 優れている 3 適切 2 改善が必要 1	自己評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3	学校法人タイケン学園グループでは、3つの建学の精神（1. 物事を科学する人材の育成、2. 質実剛健な人材の養成、3. グローバルな人材の養成）を掲げ、グローバルな感性、現代社会で勝ち抜くバランス力、政策力を持つ人材の育成を目指している。このミッションのもと、日本ウェルネス歯科衛生専門学校では、歯科衛生士に関する知識並びに技術を修得するための専門教育を行い、歯科医療施設及び関連業界で即戦力として活躍できる人材の育成を目指す。	歯科衛生士に関する専門教育を行うだけでなく、自主的・主体的に学ぶ姿勢を持ち、周囲の人々から信頼され、医療人としての「思いやり」の心を持った歯科衛生士の育成、という観点も大切にしている。
	1-2 特色ある職業教育活動に取り組んでいるか	3		
	1-3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3		
	1-4 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒、保護者等に周知されているか	3		
	1-5 教育目標・育成人材像は専門分野に関連する業界のニーズに適合しているか	3		

課題	今後の改善方策
教育理念、目的ははっきりと定められているが、昨今の歯科衛生士の社会的ニーズや歯科医療現場のニーズに即した人材の育成を、授業内容として入れていく必要がある。	教育課程編成委員会の審議とも連携して、年単位で検討をしてきたことを反映したカリキュラムにするため、2年後の変更を目標に進めている。 。

基準 2. 学校運営

大項目	評価項目	自己評価 優れている 3 適切 2 改善が必要 1	自己評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
2 学校運営	2-1 目的に沿った運営方針が策定されているか	3	<p>タイケン学園本部の方針に沿って学校運営の事業計画、人事・給与制度、財務管理、コンプライアンス体制が確立されている。</p> <p>また、タイケン学園グループでは、2018年、今後の活動の礎となる5か年計画を策定しました。これに基づいて学園グループでは大きく飛躍する分野と、その分野での展開方法を具現化して事業を進めていきます。</p> <p>週に一度、タイケン学園主催で各校代表者会議が行われ、指示を受けたことは毎週、校長および教職員のミーティングで共有している。</p>	
	2-2 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3		
	2-3 運営組織や意思決定権は、規則等において明確化され、且つ有効に機能しているか	3		
	2-4 人事、給与に関する制度は整備されているか	3		
	2-5 教務・財務等の意思決定システムが整備されているか	3		
	2-6 業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3		
	2-7 情報システム化による業務の効率化が図られているか	3		

課題	今後の改善方策
徐々に情報システム化による業務の効率化を進めてきているが、昨年に続きさらに推進していく必要のある領域である。	情報システム化による業務効率化推進は、法人グループ全体として中長期計画に取り込んでいる。

基準 3. 教育活動

大項目	評価項目	自己評価 優れている 3 適切 2 改善が必要 1	自己評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
3 教育活動	3-1 理念に沿った教育課程の構成、実施方針が策定されているか	3	教育課程の構成や実施方針は、歯科医療現場の人材ニーズにあわせて適切に策定され、必要に応じて改善を行っている。	最終目標である歯科衛生士国家試験合格に向けて、1・2年次には各科目を確実に理解できるようじっくりと取り組む体制とし、3年次には総括を行っている。 また、学校関係者評価や教育課程編成委員会等を通じて、歯科医療現場の最新のニーズを把握し、カリキュラムの確認と見直しを行っている。
	3-2 修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間は明確にされているか	3	学則内に、各年次での教育課程、単位および授業時間を明記し、学生に周知している。	
	3-3 学科等のカリキュラムは体系的に構成されているか	3	各年次での到達目標を定め、それに応じたカリキュラムを適切に設定している。	
	3-4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3	本校の教育理念に沿って教育活動を行っていく中で、社会的および職業的にも自立した人間になれるよう、就職ガイダンスなどを通じてさらにキャリア教育を徹底していく必要がある。	
	3-5 授業評価の実施・評価体制はあるか	3	全講師を対象に当校で設定した評価基準により、年に一度各講師の授業内容について評価を行っている。	
	3-6 成績評価、単位認定等の基準は明確になっているか	3	成績評価と単位認定等の基準は学則内に明記し、職員間および学生に周知徹底している。	入学時に保護者に学則、細則について全て説明している。また、各学年の成績通知時にも基準等詳細を記載して送付している。
	3-7 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3	最終目標である歯科衛生士国家試験合格を目指すための指導体制、カリキュラム作りを行っており、履修要綱内にも明記している。	3年次には、総合演習および模擬試験を行い、国家試験に向けてレベルアップをしていく。
	3-8 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	各学科目のスペシャリストであり、本校の教育目標を達成するべく要件を満たしている人物を採用している。	日本大学松戸歯学部、日本大学歯学部、日本歯科大学等からの専門の講師陣を招き、より実践的な教育プログラムの提供に力を入れている。
	3-9 教員の資質向上や指導力育成に向けた取り組みがなされているか	3	学園本部主催の合同研修を年に数回実施し、教員の資質向上や指導力養成に取り組んでいる。また歯科衛生士に特化した最新の事例や取り組みについては、外部の研修等を利用して個別にスキルアップをしている。	

課題	今後の改善方策
高齢化社会のニーズに即した人材の育成について、授業で行い知識はついているが、現場での実習をもっと取り入れていくべきである。	教育課程編成委員会の審議とも連携して、高齢者施設での実習等を今より充実したものにする 것을検討していく。

4. 学修成果

大項目	評価項目	自己評価 優れている 3 適切 2 改善が必要 1	自己評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
4 学修成果	4-1 就職率の向上が図られているか	3	卒業生全員が卒業時には歯科衛生士として就職できることを前提に、最新の求人情報が閲覧できるように、また個別相談にも随時応じている。	就職希望者は100%の就職率である。
	4-2 資格取得率の向上が図られているか	3	最終目標である歯科衛生士国家試験の合格を目指して、年次ごとのカリキュラムが組まれている。全員卒業、全員合格を目標として対策、指導に力を入れている。	国試合格率は平成29年度も100%である。国家試験対策授業の中では、難しい知識を自分のものにしていくための勉強のコツなども含めて、各々の弱点を確実に克服するまで徹底的に指導を行い、全員合格を目指している。
	4-3 退学率の低減が図られているか	2	担任による個人面談等継続的に行い、職員間での情報共有など、個々の問題点を早期に支援する体制作りに努めている。	
	4-4 卒業生、在校生の社会的な活躍・評価を把握しているか	3	卒業時に進路報告を義務付け、就職先を把握している。就職先が変わった場合は連絡するよう指導している。	

課題	今後の改善方策
近年、基礎学力の低い学生、授業に集中できない学生が増えてきている。また、心のケアが必要な学生も増えている。このことが原因で退学に繋がる場合もある。	学力不足の学生のフォローは徹底的に行っているが、心のケアが必要な学生については出来る限りのフォローを行っている。しかし病的なところまでは難しい為、専門家との連携、また入試方法を考えてみる。

5. 学生支援

大項目	評価項目	自己評価 優れている 3 適切 2 改善が必要 1	自己評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
5 学生支援	5-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3	3年の10月~11月頃にかけて数回の就職ガイダンスを開催し、就職に向けた支援を行っている。また、各担任および就職担当者が学生からの個別相談にも応じている。	就職ガイダンスでは、求人票の見方、内容の説明、見学についてなどの講義を受ける。その後、複数の歯科医院参加のガイダンスを行っている。
	5-2 学生相談に関する体制は整備されているか	3	担任による個別面談を適宜実施し、必要に応じて週1回の全体ミーティングで校長はじめ職員間で共有し、サポート体制がとれるようにしている。	
	5-3 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3	経済的側面に不安のある学生、保護者については、入学前の学校説明会（個別相談）および入学後においても随時、学費サポート体制について一緒に話し合い、個別の状況に応じた支援を行っている。	学生の都合にあわせてさまざまな学費サポートプランを用意している。 ・分割払い ・日本学生支援機構・東京育英会の奨学金 ・タイケン学園特待生制度等
	5-4 学生の健康管理を担う体制は整備されているか	3	年一回健康診断を実施し、学生の健康管理に努めている。また、持病等を持つ学生に対しては、担任による個別面談を通して、健康状態の把握に努めている。	保健室は教務室・事務室の中に設置されており、入口はカーテンで仕切り、いつでも状態把握できるようになっている。
	5-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	タイケン学園グループの日本ウェルネススポーツ専門学校の部活動に参加することができる。また、歯科校が中心になって行っているサークル活動もあり、学生が自由に参加できる仕組みとし、支援体制を整備している。	学園グループ全体の課外活動として以下のものを開催している。 ・タイケン学園スポーツ祭（5月） ・タイケンフェスティバル（11月）
	5-6 学生寮など、学生の生活環境への支援は整備されているか	3	一人暮らしを希望する学生には、提携している近隣の学生会館や学生寮、その他学生マンションも紹介し、学生の生活環境支援に努めている。	
	5-7 保護者との連携体制は適切に行われているか	3	年1回の成績表を送付している。また、出席状況等、何か問題が発生した際にはすぐに保護者にも連絡を取り、状況の把握と共有に努めている。休学や退学などの申し出があった際には、3者面談を基本としている。	保護者への電話連絡の頻度は高い。
	5-8 卒業生への支援体制は整備されているか	3	卒業後は個別相談で随時対応している。必要に応じて、学校内の求人票を閲覧できるようにしている。	

課題	今後の改善方策
求人情報の提供および就職ガイダンスは実施しているが、のんびりしている学生も多いので、より早い段階で就職への意識付けが必要である。	毎年改善はしているが、方法についてももう少し検討する。

6. 教育環境

大項目	評価項目	自己評価 優れている 3 適切 2 改善が必要 1	自己評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
6 教育環境	施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	歯科衛生士の専門技術を修得するために、歯科ユニットを備えた実習室、模型を使った技術習得のための実験室、レントゲン室、講師の手元の技術をはっきりと見ながら学べるように、一人1台のパソコン画面にカメラ映像で動作を映し出す設備等、歯科衛生士学校として最適な学習環境、設備を整えている。	
	学外の実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	昼間部では2年次後期より、夜間部は2年次中期より、学外での臨床実習を行っており、大学病院および歯科診療所において、GIO、SBOsに沿った実習を行っている。また、臨地実習として保育園や小学校で歯磨き指導を行っている。	大学病院は臨床実習要領および各科マニュアルに基づき、歯科診療所は臨床実習要領に基づき、オリエンテーションを行い、実習がスムーズに進められるようにしている。 今年度から夜間部の矯正歯科での実習を開始している。
	防災に対する体制、学内における安全管理体制は整備されているか	3	年1回避難訓練を実施し、避難経路の確認を行っている。	事故発生時の対応マニュアル、危機管理対応マニュアルを整備している。

課題	今後の改善方策
高齢化社会に対応するため、高齢者について机上だけの勉強では実際に対応できない。	大規模な高齢者施設の見学だけでなく、小規模なところで頻度を多くしてかかわることができるようにしていくことを検討していく。

7. 学生の受け入れ募集

大項目	評価項目	自己評価	自己評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
		優れている 3 適切 2 改善が必要 1		
7 学生の受け入れ募集	7-1 学生募集活動は、適切かつ効果的に行われているか	3	当校ホームページや、媒体経由での資料請求者にパンフレット・募集要項を送付している。また、高校の進路指導室への訪問、校内校外ガイダンスへの参加、体験入学や学校説明会を実施している。	
	7-2 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	3	入学選考方法は募集要項に明記し、学則（細則）の入学試験規定に明記した通りに実施している。	
	7-3 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3	学納金は募集要項に掲載しているが、毎年見直しすべき点はないかを検討し、学園に許可を得ている。	学則に規定している学費等以外の諸経費については、請求時に詳細を明記して送付している。

課題	今後の改善方策
基礎学力不足の学生が増えてきている為、入学選考方法も考えていかなければならない。	すぐにできることとして、入学直後に基礎勉強をする時間を設ける。入学選考方法は時間をかけて考えていく。

8. 財務

大項目	評価項目	自己評価 優れている 3 適切 2 改善が必要 1	自己評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
8 財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	3	予防歯科、口腔ケアの意識の高まりもあり、今後ますます歯科衛生士の需要が高まってくることから、中長期的に財務基盤は安定しているといえる。	
	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3	年度予算、収支計画は、目的目標に照らして有効かつ妥当なものとなっている。	
	財務について会計監査が適正に行われているか	3	タイケン学園本部により、会計監査は適正に行われている。	
	財務情報公開の体制準備はできているか	3	資料の作成は適正に行われており、情報公開の依頼があれば速やかに開示する体制となっている。	

課題	今後の改善方策
現時点では特に課題は無し	

9. 法令等の遵守

大項目	評価項目	自己評価 優れている 3 適切 2 改善が必要 1	自己評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
9 法令等の遵守	9-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な運営がなされているか	3	法令や専修学校設置基準は遵守され、適正な運営がなされている。	
	9-2 個人情報に関する対策を実施しているか	3	個人情報保護に関する対策は適正に実施している。タイケン学園全体としても、個人情報保護についての職員への教育が徹底されている。	
	9-3 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3	毎年自己点検、自己評価を実施し、問題点が発見された際には改善に努めている。	
	9-4 自己評価結果を公開しているか	3	自己評価は年2回（8月、2月頃）実施し、評価結果はホームページ上に公開している。	
	9-5 学校関係者評価結果の実施体制を整備し評価を行っているか	3	年2回の自己評価結果に基づき、年2回（8月、3月）開催している。	
	9-6 学校関係者評価結果を公開しているか	3	希望者には閲覧できるよう整備している。	
	9-7 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3	学校概要、教育内容などの基本情報についてはパンフレットやホームページに公開し、積極的に情報発信しているが、今後職業実践専門課程の認可申請に伴い、より詳細の情報を公開していく予定である。	

課題	今後の改善方針
現時点では特に課題は無し	

10. 社会貢献・地域貢献

大項目	評価項目	自己評価 優れている 3 適切 2 改善が必要 1	自己評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
10 社会貢献・ 地域貢献	10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	校外活動として、保育園や小学校で歯磨き指導を行っている。また、歯科医師の研修の場として施設を提供している。	年1回の歯科イベント時には、地域の方々、近隣の福祉施設の通所者にも来ていただき、体験、指導などを行っている。
	10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2	学外からボランティア活動の募集があった際には掲示板等でも周知し、学生自らの意思で活動に取り組めるよう奨励している。	
	10-3 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2	現時点では地域に対する公開講座や教育訓練の受託は実施していないが、今後地域からの要望等があった場合、検討していきたい。	

課題	今後の改善方策
現時点では地域に対する公開講座は実施していない	今後地域の方々と交流している中で、要望等があれば、実施を検討していきたい。

1 1. 国際交流

大項目	評価項目	自己評価 優れている 3 適切 2 改善が必要 1	自己評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
11 国際交流	11-1 グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか	3	学校法人タイケン学園グループは、グローバルな人材育成を建学の精神に掲げており、グローバルな感性を持つ人材育成に力を注いでいる。留学生の受け入れも積極的に行っているが、歯科衛生士国家試験は一定の基準以上の日本語レベルを必要とすることもあり、留学生の入学者数増加は今後の課題である。	卒業式後にフィンランドの歯科衛生士学校を見学している。（H28年度卒業生有志）

課題	今後の改善方策
留学生の受け入れ態勢はあるが、歯科衛生士国家試験は一定の基準以上の日本語レベルが必要なこともあり、入学者増加にはつながっていない。	学園の国際交流部と連携をとりながら進めていく。